

2023年度入学試験問題

小論文

(教育学部 養護教諭養成課程 前期)

注 意

- 1 問題冊子は1冊(4ページ)、解答用紙は3枚、下書き用紙は3枚です。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により解答できない場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 すべての解答用紙に、それぞれ2箇所受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は必ず持ち帰りなさい。

問題 次の資料1, 2を読み, 設問1, 2, 3に答えてください。

資料1

エランの実験はシンプルだった。まずダイエットや食事療法をしていない健康な被験者を選び, ランダムに2つのグループに分けた。一方は白いパンを毎日1週間食べ, もう一方は茶色いパンを同様に食べる。どちらもそれ以外の小麦製品をとってはいけない。また朝食はパンのみにする。昼食と夕食には好きなものを一緒に食べてかまわない。実験後は両グループとも2週間の休憩期間をとり, その後は互いに実験内容を入れ替えた。

被験者のパンに対する反応は, 炎症反応や栄養吸収度などを含めて細かく測定した。中でも重要なのは①血糖値の変化だ。これは健康のカギにもなる要素なので, ここで少し説明しておこう。血糖値をコントロールするメカニズムは人体にとって非常に重要だ。まず, 食事で摂取した糖分は体内でブドウ糖に変わり, 血液中に運ばれる。するとインスリンというホルモンが分泌され, ブドウ糖を(あとでエネルギーとして利用するため)グリコーゲンに変えて肝臓に貯蔵する。

ただしインスリンは, 血中の余分なブドウ糖を中性脂肪として細胞内に取り込む働きもする。これが肥満の主な原因だ。しかし血中に余分なブドウ糖が多すぎると, その濃度(つまり血糖値)を下げようとしてインスリンが過剰に分泌され, 逆に血糖値が急降下してしまう。これが強い空腹感を引き起こし, 実際には十分に食べているのにもっと食べたいと感じる原因になる。こうした血糖値の乱高下は糖尿病や心血管疾患のリスクを高める。2000人の被験者を30年以上追った調査では, 血糖値の上下が大きい人のほうが死亡率が高いという結果が出ている。慢性的な高血糖は全身の血管を傷つけ, さまざまな障害をもたらす。しかし食後の血糖値が安定していると, 心疾患やがんのリスクが下がるとも言われている。つまり血糖値は, たんに体重ばかりでなく健康状態そのものに大きな影響を及ぼす。

さて, エランの実験結果はどう出たか。念のため平均値も出しているのだから, まずはそちらを見てみよう。2種類のパンの違いは, 血糖値の変化にも, その他の臨床的指

標にもまったく現れていなかった。つまり市販の白いパンも手作りの茶色いパンも, 実質的に同じ反応を示していた。これを見る限り, 食事のアドバイスをすれば, この2種類のパンについては中立的な立場をとらなければならないようだ。どちらのパンも同じなら, 食べたいほう, あるいは安いほうを選べばいい。

しかしこれこそ平均値のマジックだ。では, 個人個人の反応はどうだったか? 多様性は見られたのか? 結果は驚くべきものだった。被験者の中には, 茶色いパンでは血糖値が安定し, 白いパンでは不安定だったという人もいれば, まったく逆の反応を示した人もいた。また2種類のパンで反応がほぼ変わらなかった人もいれば, 劇的な差が出た人もいた。「一人ひとりかなり違う結果が出ました」とエランは言う。「たんなる平均ではなく, 個人を見る必要が間違いなくありました」

一人ひとりの反応はなぜそんなに違ったのか? それはパイロットが1つのコックピットに収まらないのと同じだ。1つのパンに対する反応も, 人によって細かく異なる。年齢, 遺伝的特徴, 生活習慣などさまざまな要素が関連している。

その中でも特に興味深いのがマイクロバイオーーム(人間の体に共存する細菌叢)だ。腸内には約40兆個(最大1000種類)の細菌が生息している。この「宇宙」には人間の200倍以上の遺伝子が存在していて, それが食物の消化や栄養吸収, 免疫システムなどに大きく影響していると言われている。そしてこのマイクロバイオーームの構成は人によって異なる。

このように細菌や遺伝子レベルまで, さまざまな独自要素を踏まえた上で考えれば, 「標準的な」「誰にでも当てはまる」食事療法が, いかにはばかっているかがわかるだろう。「多くの人に当てはまる」というだけでも難しいかもしれない。「考えれば考えるほど興味を惹かれました」とエランは言う。「標準化された食事療法は, 今後も欠点を抱え続けるでしょう。食物ばかり見て, 食べる側の人間を考慮していないのですから」

出典: マシュー・サイド著 多様性の科学 画一的で凋落する組織、複数の視点で問題を解決する組織

資料2

小学校に入ると、だれでもまずはひらがなやカタカナや、算数やローマ字なんかを教わるわけですが、一年生の教室で、ひらがなを教えようとしたところで、もうすぐに手が挙がってくる。

「先生、これは何の役に立つんですか？」

子どもたちがそう訊いてくるわけです。

少なくともここにおられる方たちの年齢の人たちが子どもに、小学校一年生の教室で、生まれてはじめて学校での授業を受けるときに、「これは何の役に立つのですか？」といったようなラディカルな問いかけをする人はいなかったと思います。そんな問いかけがあることを思いつきさえしなかったでしょう。

でも、今の子どもたちは、学びの場に立たされたとき、最初の質問として、「学ぶことは何の役に立つのか？」と訊いてくる。非常にシビアな、ある意味で非常にビジネスライクな質問をしてくる。

たしかに、その問いには一理あるわけです。子どもにとって、四十分なり五十分なり、教室に座ってじっとして、沈黙して先生の話す話を聞いて、ノートを取るといのは、ある種の「苦役」です。この「苦役」を、たぶん、子どもたちは教師に対して支払いをしているというふうにとらえている。別の言い方をすれば、「苦痛」や「忍耐」というかたちをした「貨幣」を教師に対して支払っている。だから、それに対して、どのような財貨やサービスが「等価交換」されるのかを彼らは問うているわけです。「僕はこれだけ払うんだけど、それに対して先生は何をくれるの？」と子どもたちは訊いている。

そのような問いに対して、教師は答えることができない。できるはずがない。これはできないのが当然なのです。そんな問いが子どもの側から出てくるはずがない、ということが教育制度の前提だからです。

「義務教育」という言葉を、今の子どもたちは「教育を受ける義務がある」というふうに理解しています。もちろんこれは間違いで、子どもには「教育を受ける義務」なんかありません。子どもには「教育を受ける権利」があるだけです。「その保護するところの子女に普通教育を受けさせる義務を負う」のは親たちの方です。教育を受ける

権利は、子どもたちにとって、その人生の可能性を広げてゆくための、もっともたいせつな権利です。その権利について、当の子どもたちの側から「どうしてこんな権利を行使しなくちゃいけないの？」という問いが差し出されることを、日本国憲法の起草者だって想像してはいなかったでしょう。「ちゃんと説明してくれたら、権利を行使するけれど、説明の意味がわからなかったら、教育を受ける権利なんか要らない」と子どもたちは言い出しているのです。

ですから、「どうして教育を受けなくちゃいけないの？」という問いに対しては、そのような問いがあるとは想像もできずに絶句する、というのが大人の側としては当然の対応のはずです。「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という憲法二十五条の「生存権」について、「どうして健康で文化的な生活を営まなくちゃいけないの？」と問うてくる子どもがいたら、誰だって絶句するでしょう。もし、こういう基本的人権について、「それはね」とすら「子どもにもわかるような説明」をしてしまう教師がいたとしたら、②そういう人間に僕はむしろ警戒心を抱きます。

出典：内田樹著 下流志向 学ばない子どもたち 働かない若者たち

設問1 資料1の下線部①の「血糖値の変化」が体に与える影響について50字以内で説明してください。

設問2 資料2の下線部②で、著者が警戒心を抱く理由を100字以内で説明してください。

設問3 資料1, 2をふまえて、あなたが、養護教諭を目指す者としてこれから学びたいことを400字から450字以内で述べてください。ただし、その文章中には、以下の3つの言葉を必ず使い、あなた自身を振り返って考えたことを必ず含めてください。

教育 子どもの立場 個別性